

【エクアドル内政・外交：2009年5月】

1. 概要

- 5月 6日 大統領選挙公式結果発表
- 7日 エガス外務省貿易・統合担当筆頭次官辞任
- 12日 ファルコニ外相、ボリビア訪問
- 19日 失業連帯体制・準備基金月極法可決
- 23日 チャベス・ベネズエラ大統領、当国訪問
- 27日 エスピネル外務省貿易・統合担当筆頭次官就任
ウルタド国家警察庁長官辞任
- 28日 マルティネス国家警察庁長官就任
- 26日 コレア大統領、ホンジュラス訪問

2. 内政

(1) エクアドル総選挙：大統領選挙

6日、国家選挙審議会(CNE)は、4月26日に実施された大統領選挙の公式開票結果を発表した。有権者は1,052万3,234人、うち投票者総数は792万9,605人、投票率75.29%。全投票数に占める白票率は6.73%、無効票率は6.26%。

順位	候補者名	得票率	得票数
1位	コレア(Rafael Correa)候補	51.95%	358万4,236票
2位	グティエレス(Lucio Gutierrez)候補	28.24%	194万8,167票
3位	ノボア(Alvaro Noboa)候補	11.44%	78万9,021票
4位	ロルドス(Martha Roldos)候補	4.34%	29万9,573票
5位	サグニヤイ(Carlos Sagnay)候補	1.57%	10万8,275票
6位	ハコメ(Melba Jacome)候補	1.35%	9万3,280票
7位	デルガド(Diego Delgado)候補	0.63%	4万3,342票
8位	ゴンサレス(Carlos Gonzalez)候補	0.49%	3万3,859票

(2) ピチンチャ戦勝187周年祝賀式典

24日、コレア大統領は、チャベス・ベネズエラ大統領及びモラレス・ボリビア大統領の参列の下、ピチンチャ戦勝187周年祝賀式典(エクアドルの独立記念日)を実施した。

コレア大統領は、「シモン・ボリバルの夢見たラテンアメリカ統合は、現実となりつつある。本日、エクアドルは、2つの独立記念日を祝賀しているのである。1つは1822年5月24日のピチンチャ戦勝日であり、もう1つは去る4月26日のエクアドル国民による市民革命支持表明日である。2つ目の独立記念日は、エクアドル国民が主権的に決定を下した結果である。エクアドル国民は、これまでに実施された5回の選挙全てにおいて市民革命への支持を表明し、既存政党を葬り去ったのである。ようやく、エクアドル国民は、少数の者のみに利益をもたらしてきただけの既に期限切れとなった不公平な経済・政治・社会システムに終止符を打ったのである」旨述べた。

(3) 新国家開発計画

18日、大統領府計画開発担当省(SENPLADES)は、2009年～2013年の新国家開発計画をコレア大統領に提出した。ラミレス(Rene Ramirez)大統領府計画開発担当省大臣は、「新国家経済開発計画での目標は、様々な投資部門における生産を通じての発展利益の再分配であ

る。我々は、過去 25 年間、ネオリベラリズムとして知られている発展戦略を有してきた。社会全体の基本的必要性を満足させるということが今次計画のこれまでの計画との視点上の違いである」旨述べた。現在のところ同計画は公表されていない。

(4)失業連帯体制・準備基金月極法可決

19 日、立法・査察委員会は失業連帯体制・準備基金月極法(Ley para el Pago de Mensual del Fondo de Reserva y Regimen Solidario de Cesantia)を賛成票 46 を以て可決した。同法案はコレア大統領に再度差し戻され、同大統領の承認が得られれば官報に掲載の上発効となる。

(5)人事異動

(a)外務省貿易・統合担当筆頭次官

7 日、エガス(Eduardo Egas)当国外務省貿易・統合担当筆頭次官が辞任した。

27 日、後任としエスピネル(Ramon Espinel)グアヤキル大学農業エンジニアが任命された。

(b)国家警察庁長官の交替

27 日、ウルタド(Jaime Hurtado)当国国家警察庁長官が辞任した。

28 日、後任としマルティネス(Fredy Martinez)警部補が任命された。

3. 外交

(1)対米関係

19 日、ファルコニ外相は、マンタ米軍基地の撤退は来る 11 月に予定されていたが、米国が同撤退を 9 月に早めたことを公表した。

ファルコニ外相は、「米国は、撤退を 2 ヶ月早める旨正式に通知越した。来る 7 月、最後の FOL オペレーションが実施され、その後撤退準備が進められることになる。我々の願いは、他国に自国を委ねてしまうような行為、我々の国家主権の下にある我々の領土の一部を他の大国に委ねてしまうような行為が二度とエクアドルにおいて繰り返されないことである。」と述べた。

(2)対露関係

4 日、ファルコニ外相は、当国を訪問したリャブコフ(Serguey Riabkov)露外務次官と会談した。また同日、ポソ(Lautaro Pozo)当国外務省筆頭次官(外務担当)は、同露外務次官と二国間政治諮問会合を実施した。

上記会合において、本年 6 月 17 日にファルコニ外相がロシアを公式訪問し、本年 10 月にコレア大統領がロシアを正式訪問することが決定した。これら訪問により、両国の友好・協力関係の強化が期待されている。

(3)対ベネズエラ関係

23 日及び 24 日、チャベス・ベネズエラ大統領が当国に訪問した。

23 日、ベネズエラ側からマドゥーロ外相、ラミレス・エネルギー鉱山大臣等がチャベス大統領に先駆け当国に到着し、当国側のファルコニ外相等と二国間閣僚会合を実施した。同会合では、二国間協定 34 案件の見直しが行われた。

24 日、コレア大統領及びチャベス大統領は、政治的対話、両国間の統合プロセス及び協力協定を補強するため、第 5 回二国間首脳会談を実施した。

(4)対ボリビア関係

12日、ファルコニ外相はボリビアを公式訪問し、チョケワンカ・ボリビア外相と会談した。上記会談では二国間テーマ、特にアンデス共同体(CAN)における決定プロセスにつき協議された。

(5) 対ペルー関係

29日、コレア大統領は、当国を訪問したガルシア・ベラウンデ・ペルー外相と会談し、二国間の様々なテーマにつき協議した。

(6) 対チリ関係

19日、ファルコニ外相は、当国を訪問したフェルナンデス・チリ外相と会談した。同会談により、去る2月のファルコニ外相のチリ訪問時に取り上げられたテーマが更に深化した。

両外相は、南米諸国連合(UNASUR)の現議長国はチリであるが、来る7月6日以降、エクアドルが議長国に就任することについても協議した。また、両外相は、来る9月にエクアドル・キト市において開催が予定されている二国間閣僚会合で協議される二国間協定の進捗状況についても見直しを行った。更に、鉱山分野での二国間協カメカニズム構築の可能性につき検討した。

(7) 対ホンジュラス関係

31日、コレア大統領はホンジュラスを公式訪問した。両首脳は会談を実施し、以下の協定3件に署名した。

(イ) 生物多様性の保全強化及び観光プログラム推進のための二国間協定

(ロ) 国家開発計画策定のための二国間技術援助協定

(ハ) サモラノ大学学位のエクアドル国家高等教育審議会(CONESUP)による認定のための二国間協定

(8) 対イタリア関係

エクアドル政府は、13日にイタリア議会において可決された「安全に関する規則」を、移民の人権侵害であるとして拒絶した。エクアドル政府は、上記規則を、移民合法化の条件を厳しくすることにより、人の移動の自由を犯罪であると捉え、移民を犯罪者であると捉えたものであると見なし、上記規則は、非合法移民に対する刑罰を強化し、非合法移民に住居を貸し出す者は投獄し、警察と協力する市民巡回を合法化し、非合法移民の摘発を義務化し、非合法移民が行政事務手続きを実施することを禁じている。非合法移民が行政事務手続きを実施できなければ、非合法移民の子息は戸籍簿に登録されないことになり、従って放棄された状態と見なされ、養子とされてしまう危険性があると非難した。

※以上は、当地新聞情報をとりまとめたものです。